

平成 2 5 年 9 月 3 0 日
日本原子力発電株式会社

原子力規制庁に対する敦賀発電所敷地内破砕帯調査に係る
今後の審議等に関するお願いについて

当社は、敦賀発電所敷地内破砕帯調査に係る今後の審議等に関し、本日、原子力規制庁櫻田審議官に対し、副社長の市村より、添付のお願いを行いましたので、お知らせいたします。

○添付資料

敦賀発電所敷地内破砕帯調査に係る今後の審議等に関するお願い

以 上

敦賀発電所敷地内破砕帯調査に係る今後の審議等に関するお願い

1. 破砕帯調査の審議を早急に行って頂きたい。

去る 7 月 11 日に当社の調査報告書を提出した後、約 1 ヶ月半を経過したところで検討会合が開かれましたが、「改めて規制庁として報告書を分析するため、さらに当社に確認作業をする」ということで、会合を終えました。しかし、その後、規制庁事務局に再三確認するも、何らの方針を示されることなく、既に 1 ヶ月が経過しています。

第 1 回検討会合において、当社から、本会合の位置づけ、議論の範囲、その後の取り扱いなどについて、どのようなプロセスと判断基準で決めて行かれるのか、お尋ねしましたが、「最後まで話を聞かないと判断できない」との趣旨のお答えでした。

しかしながら、本来、審議の方針や判断基準は予め決めておいてから審議を進められるのが、規制当局としての適正な手続きであると考えます。また、審議の公平・公正性の観点からも不可欠であると考えます。

従いまして、これらのことを明らかにされた上で、早急に審議を行って頂けるようお願いいたします。

2. 現地確認を早急に行って頂きたい。

有識者会合がこれまで現地を確認されたのは、当社の調査の初期の段階（昨年 12 月）の 2 日間だけですが、その後、当社は調査計画に則って調査を継続し、データを蓄積してまいりました。7 月 11 日の報告書には、活断層か否かの判断の決め手となる数多くの観察事実が含まれております。これらを直接目で見て確認して頂く必要があります。従いまして、関係する専門家による現地の確認を早急をお願いいたします。

また、現地は山を掘削した大規模な露頭です。良好な状態に保つために最大限の努力をしておりますが、最近のゲリラ豪雨や近年にない規模の台風により観察面の劣化も認められますことから、一日も早く実施して頂くようお願いいたします。

3. 「首都大学東京鈴木教授からのメール」のやり取りに関する文書の公表を早急に行って頂きたい。

評価書において、D-1 破砕帯が活断層であると判断した最大の根拠としていた鈴木教授からのメールについては、極く一部だけ公表されていますが、教授にそのメールを依頼した経緯、教授に対する質問の内容、さらには、そのメールを判定根拠とすることについての有識者会合における議論や評価の内容については、全く明らかにされていません。

そのため、当社としては、このままでは本メールを根拠として結論を導いた評価書の信頼性について疑問を呈さざるを得ず、また、この根拠について何ら議論も評価もすることなく了承した原子力規制委員会の判断についても、疑問を抱かざるを得ません。このような不透明、不明確な根拠に基づいた判断については、審議のやり直しをすべきものと考えます。

従いまして、敦賀発電所、ひいては当社の名誉・信用並びに事業運営に重大な影響を及ぼす判断の根拠となった本件の重要性に鑑み、すべてをオープンにするとの原子力規制委員会の基本方針に則り、本件に関する文書、情報はすべて公表して頂くようお願いいたします。

以上